

第12回医療過誤・訴訟セミナー

日常的な治療行為が最高裁に

西宮・芦屋支部は4月4日、兵庫県学校厚生会館で、「日常的な治療行為が最高裁判所に」をテーマに第12回医療過誤・訴訟セミナーを開催、医師・スタツフら42人が参加した。鶴飼万貴子弁護士(米田泰邦法律事務所)が講師を、広川恵一先生(広川内科クリニック)が司会を務めた。西田禎宏先生の感想文を掲載する。

「医療過誤・訴訟セミナー」に参加して

私は10年以上同じスポーツジムへ通って自分なりの運動をしているが、最近ある男性から嫌がらせとも言える言動を蒙っている。こちらは熟慮して他人に迷惑がかからないように気を配りながら運動しているのですが、どう考えても彼の方が理不尽なのである。そこで私はテレビドラマ『相棒』の「右京さん」になることとした。冷静に観察し、論理的に考え、相手の感情を想像し、決してけんか腰にならず、サラッとしている。こう考えると自分も穏やかである。

医療界においても10年ほど前から、インフォームド・コンセントに始まり、セカンド・オピニオン、ドクター・ショッピング、EBM、インターネット情報等々の変遷が見られる。なぜかそうした経緯とともに、患者さんと医師の間の信

日常的な治療行為が医療訴訟に
いたったケースを解説



頼関係(以前は押し付け的なものもあったかも知れないが)の一部である、損なわれ、感じられるの感だけあるのか。「患者様」と呼ぶようになったのと符合するようにも思う。今回講師の鶴飼弁護士から提示された



鶴飼万貴子弁護士

症例では、治療時間が短かったことに不信感を抱いたというところからボタンの掛け違いが始まったように思われる。手術に関しては問題なしとされ、その後の障害発生が訴訟の論点となっている。長い係争のなかでの患者側の訴えの変遷には主治医以外の人間との関係も絡んできて、ボタンの掛けちがいが増幅されてくるが、根本的には最初のこの患者の認識に起因すると思われる。したがって、医療者側としてはこの始めの段階での患者とのコミュニケーションが大切であると考ええる。すなわち「始めが肝心」なのである。

こうした弁護士活動の中での医療面への積極的研究・思索が、先ほどの法曹界と医療界とのギャップを埋めてもらえるのではないかと、大いに期待できる講演であったと感じられた。

最後に、この原稿を書き上げるころ、ジムでの嫌がらせ者は何事もなかったかのように、私の前を無言で通り過ぎていったことを追記させていただきます。

西田 禎宏 (西田クリニック)

メディカルスタッフ勉強会 外来・在宅でのより良い コミュニケーションを考える ～みて、きいて、感じて～

日時 5月16日(土) 午後2時～3時半
会場 西宮市民会館特別会議室A
講師 村上 博 先生 (ユニコの森・村上こどもクリニック)
参加費無料 定員50人 (先着順)

Medical English # 22

日時 6月12日(金) 午後2時～3時半
会場 西宮医療会館1階会議室
テーマ 呼吸器 喘息・COPD (仮)
講師 Mr. Robert Conroy (Com Language School 講師)
司会 坂尾 福光 先生 (西宮市・ヒューハイッククリニック)
アドバイザー 鍵岡 均 先生 (西宮市・かぎおかクリニック)

お問い合わせは担当事務局・岡林、伊藤、横山まで
Tel : 078-393-1801 Fax : 078-393-1802

第21回漢方研究会

漢方薬理学の最新の知見を提供

西宮・芦屋支部は3月14日、協会会議室で、「漢方薬理学の最近の知見について」をテーマに第21回漢方研究会を薬科部と共催、39人が参加した。牧野利明先生(名古屋市立大学院薬学研究所准教授)が講師を、川崎史寛先生(川崎医院)・長光由紀先生(ウイング調剤薬局)が司会を務めた。桑原澄江先生(薬剤師)の感想文を紹介する。

フラボノイドの一種である各種ケルセチン配糖体をラットに経口投与したとき、アグリコン(非糖成分)の血中濃度は20分程で最高値を示す事が実験で確かめられているのです



牧野利明先生

夙川の夜桜で 交流深める

西宮・芦屋支部は4月4日、西宮市・夙川公園で7年ぶりとなる支部お花見会を開催。会員・スタッフ・家族ら17人が参加し、夜桜と交流の夕べを楽しんだ。



兵庫県保険医協会西宮・芦屋支部 第29回支部総会

日 時 7月4日(土) 午後2時～ 支部総会
午後2時半～ 記念講演
午後4時半～ 懇親会

会 場 西宮市勤労会館 (大ホール・会議室)

記念講演 脳を楽しむ～記憶・意欲・睡眠をめぐる～

講 師 池谷 祐二 先生 (東京大学准教授)

後 援 西宮市・西宮市教育委員会・西宮市文化振興財団
芦屋市・芦屋市教育委員会

お問い合わせは担当事務局・岡林、伊藤、横山まで

Tel : 078-393-1801 Fax : 078-393-1802



とグラフが示された。これまで、配糖体は腸内細菌で糖が切れてから有効成分が吸収されると思ってきたが、体内動態はそれぞれの生薬によって異なるという事を教えていた。そして、漢方薬の体内動態の主役はトランスポーターであるという考え方についての解説があった。

漢方薬の体内動態についての研究成果を聞く参加者

例えば 配糖体(漢方薬は殆どが配糖体)の場合であれば、グリコシダーゼによつて糖が1個だけついた配糖体に分解された場合、糖の部分にグルコーストランスポーターにより認識されるので、結

合した有効成分もそれに連れられて吸収されるというメカニズムにより、上部消化管からも薬効成分が吸収されるという可能性について話された。

冷えて鼻水がぼとつと落ちたときに小青竜湯を急いで飲むと5分もたたないうちに鼻水が止まってしまう不思議にも、トランスポーターという考え方でいけば説明がつくという可能性を示していただき、大変有意義な時間を過ごせた。

経験的にしか知りえなかったことが、トランスポーターのメカニズムで考えると、理屈がわかり納得がいったので、この仮説がもし正しいものであり、こういうことが明らかにになれば、患者さんにもより信頼を得る説明が出来るようになるのではないかと期待に胸膨らむ思いで会場を後にする事ができた。

また、オフレコと称し内緒の役立つ情報も教えていただいたので、これも患者さんへの説明時に役立つ内容だったので。これからもこのようなチャンスを逃さないようにしようと思った。

桑原 澄江(薬剤師)

世話人会だより

西宮・芦屋支部は3月27日(金)に西宮医療会館で世話人会を開催しました。出席は9人。

【報告】

①健康と医療について語り合う会 (2・27)

②英語で診療#21 (3・13)

③第21回漢方研究会 (3・14)

【協議事項】

①第12回医療過誤・訴訟

セミナー (4・4)

②メディカルスタッフ勉強会 (5・16)

③英語で診療#22 (6・12)

④ガイドライン研究会 (6・25)

⑤第29回支部総会 (7・4)

⑥第21回在宅医療研究会 (7・25)

⑦阪神淡路大震災15周年企画

※世話人会の日程は毎月第4金曜日です。支部についてのご意見や企画案などをお寄せください。